

近年の県内（松山市除く）廃棄物処理施設関係の火災概要

発生年月	発生施設	概要 (新聞報道等)	発生原因と対策等
H30.8	安定型最終処分場	無人の処分場内の廃プラスチック類やビニールシートなど約 200 m ² を焼いた。 けが人なし。	ポリ容器に残存していた灯油がビニールシート等に染み込み、猛暑の影響等により発火したものと推測。 対策として、展開検査、覆土、日常の目視点検を徹底。
H30.9	管理型最終処分場	無人の処分場内の埋立前の廃棄物約 500 m ² を焼いた。 けが人なし。	現場検証の結果、火災原因は不明であった。 対策として、散水、廃棄物の確認を強化する。
H31.1	中間処理施設	ボイラー燃料にする廃棄物の破碎施設から出火。破碎施設のある建屋やベルトコンベヤー等計 1,187 m ² を焼いた。 けが人なし。	破碎物がホッパー内で空回りし摩擦熱が発生、破碎物に混入していた金属片や石が刃と接触し火花発生等が推定されるが、消防署立ち合いの現場検証（施設分解点検）でも原因は不明であった。 対策として、破碎物が空回りしにくい構造の破碎施設に変更、破碎施設内部の温度上昇を検知し破碎を停止・消火する安全装置の設置、周辺に延焼物がないよう移設、初期消火訓練の実施等。
H31.1	中間処理施設	無人の廃プラスチック類等中間処理施設内から出火。建屋約 1,200 m ² 、テント倉庫約 365 m ² 及び廃プラスチック燃料などを焼いた。 けが人なし。	廃棄物の中に金属片が紛れ込み、破碎機の刃と衝突を繰り返し火花が発生し、残留した未処理廃棄物中で時間をかけて発火したものと推測。 対策として、複数名での処理前廃棄物の目視確認、破碎後の残留物を機器内に残さないこと、磁選機の設置検討、社内再教育の徹底等。
R1.7	積替え保管施設	無人の屋外産業廃棄物積替え保管施設から出火。古タイヤや木製パレット等約 80 m ² を焼いた。 けが人なし。	現場検証の結果、火災原因は特定できず、不審火として処理された。 対策として、監視カメラの設置、従業員による監視を強化する。
R1.10	安定型最終処分場	処分場内から出火し、廃タイヤやプラスチックごみなど約 360 m ² を焼いた。 けが人なし。	現場検証の結果、火災原因は不明であったが、収れん火災や不審火の可能性があると推測。 対策として、展開検査、覆土、日常の目視点検、定期的な施設検査や清掃を徹底するとともに、監視カメラを2台設置して監視を強化する。

